

## 図書館に関する新聞記事の内容調査

### Investigations on Newspaper Articles about Libraries

学籍番号：201221619

氏名：林 麗娜

LINA LIN

メディアが形成する図書館のイメージを明らかにすることを目的として、漫画や映画における図書館や図書館員の描かれ方を調べた研究はいくつかある。だが漫画や映画と同じく人々の図書館に対するイメージ形成に寄与していると思われる新聞記事における図書館の描かれ方を調べた研究はほとんどない。新聞記事が人々の図書館像を決定する力は漫画や映画に劣らず強く、それを明らかにすることには様々な意義があると考えられる。

本研究では図書館に対するイメージの変遷を間接的に明らかにすることを目的として、新聞記事における図書館の描かれ方を、主にテキストマイニングの手法によって明らかにする。新聞記事というメディアの中の図書館像を明らかにできれば図書館関係者はそれを新たなイメージ戦略に活用できる。さらに、新聞記者という図書館外部の人間が有益と判断した事項を把握することができ、その情報は今後の図書館を考える上で参考になる。

調査対象記事としては、日本経済新聞と朝日新聞の記事で見出しに「図書館」という語を含むものとする。対象期間は1985年1月から2012年12月までの28年で、月ごとに1記事ずつ抽出した。また新聞記事中に描かれている図書館の特徴を明らかにするために、日本図書館協会が発行する「図書館雑誌」の特集に含まれるタイトルを抽出し、新聞記事と比較した。

その結果、図書館の館種については、朝日新聞と日本経済新聞共に国立国会図書館に関する記事が減少傾向にあり、公立図書館に関する記事は増加傾向にあることが見出された。一方、図書館雑誌の特集のタイトルでは、国立国会図書館に関するタイトルが経年的に増加する傾向が見られた。図書館の建物に関しては朝日新聞では近年減少していたが、日本経済新聞では手作業による分類やテキストマイニングで共に、図書館建設に関する記事が増加していた。図書館建設は依然として図書館の重要な話題であることが示された。また、図書館電算化については2004年以降大幅に減少していた。図書館の基本的な電算化はほぼ終わり、記事として取り上げるものではなくなったと考えられる。

新聞記事と図書館雑誌とを比較すると、新聞記事では図書館の電算化、図書館のサービス、建築などが多く取り上げられていた。図書館雑誌でも触れられているが、それよりも図書館員教育、障害者サービス、司書などの方が相対的に多く取り上げられていた。このように新聞記事と図書館雑誌が扱う図書館の話題については若干異なることが示された。

研究指導教員：辻 慶太

副研究指導教員：芳鐘 冬樹